

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、「話を聞く・考える・表現する」ことを重視した授業展開を考えたことにより、主体的に取り組む態度が向上している。
- ・第3学年は、授業内で読解を丁寧に行うことを心がけることで、文学的な文章の内容を読み取る力が向上している。

(2) 課題

- ・第1学年は、どの領域においても目標値を上回っている。我が国の言語文化に関する事項においてさらに学力向上の余地がある。
- ・第2学年は、全体的には目標値を上回っている。小学校で学習した漢字の読み書きの習得が不十分であることと、言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られた。
- ・第3学年は、全体的に目標値を下回っている。特に、我が国の言語文化に関する事項や、漢字を読むことに課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	上回っている	/	/
第2学年	前年度より 9.9ポイント 下回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 12.6ポイント 下回っている	前年度より 1.7ポイント 下回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に区の目標値を上回っている。小学校で学習した漢字を書くことに課題が見られる。	全体的に区の目標値を上回っている。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。	全体的に区の目標値を上回っている。特に、自分の考えの理由を明確にして書く力に優れている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おおむね区の目標を上回っている。文法・語句に関する理解に課題が見られる。	おおむね区の目標を上回っている。登場人物の心情の変化について描写をとらえることや、読み取った内容を明確にして書くことに課題が見られる。	全体的に区の目標を上回っている。特に、話題や展開を捉えながら、話し合い、互いの発言をまとめる力や自分の考えを明確にして書く力がついている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字を書くことについて、区の目標を上回っている。古典に関する問題に課題が見られる。	話の内容を聞き取ることや、資料から情報を読み取ること、文章を比較して表現の効果について考える問題に課題が見られる。	全体的に区の目標を下回っている。特に、文章を書くことにおいて全般的に課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日々の漢字の学習や、授業内の漢字の小テストの中に、小学校で既習した漢字を取り入れ、復習を強化する。	資料から情報を読み取り、自分の考えを伝えるような活動を取り入れ、読解力や表現力を高める指導を行う。	引き続き、自他の考え・意見を読み、話し合い活動を行うことで、主体的・対話的に学び合える授業環境を整えていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業内での文法や語句に関する学習について、定期的に復習を行ったり、小テストで知識を問う設問を行ったりし、復習を強化する。	場面と描写を結び付け、書き手の考えや思いを想像して読み取れるように、具体的な描写の持つ効果に着目した授業展開、学習を実施する。	引き続き、自他の考え・意見を読み・聞きしあい、適宜メモを取らせることで、考えの多様性を理解させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的仮名遣いの復習を行ったり、現代語訳を手掛かりに古典を読んだりする力が向上するよう指導していく。	話し合い活動などの交流を増やすことで、聞き取る力の向上を目指す。また、文学的文章の学習では情景描写や表現技法に注目し読解するよう指導していく。	書くことそのものに苦手意識を持っている傾向があるので、文章を書く課題に取り組むときには例を示したり、文章を書くことが得意な生徒のものを示したりして、取り組むことへの拒絶感を減らしていく。

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、1年次の課題を踏まえ、学習課題を各種統計資料や図版等から自ら見出しそれらについて考察する機会を増やした。その結果、主体的に学習に取り組む態度の向上を図ることができた。
- ・第3学年は、2年次の課題を踏まえ、各種統計資料から根拠となる情報を読み取り、それらを基にした論理的な思考力や判断力の伸長を図る機会を増やした。その結果、思考・判断・表現に関わる力に向上の兆しが見られる。

(2) 課題

- ・第1学年は、観点別に見ると「思考・判断・表現」の観点において、既存の知識や情報、資料を用いて他の社会的事象と関連付けて「考察する力」に改善の余地が見られる。
- ・第2学年は、領域別にみると「歴史的分野」、観点別にみると「知識・技能」の観点において「基礎的事項の定着」に改善の余地が見られる。
- ・第3学年は、観点別にみると「知識・技能」の観点において、既存の知識と各種資料等を関連付けるなど、基礎的事項の定着を基にした情報や資料の「活用する力」に改善の余地が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 12.9ポイント下回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より1.0ポイント下回っている。	前年度より6.4ポイント下回っている。 (第2学年時)	下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野の各時代における政治政策についての理解に課題が見られる。	おもに複数の資料から情報を読み取ったり、その関連性を考察したりする力に課題が見られる。	おもに資料から読み取れたことを記述し解答する問いに対して課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野の古代の政治・文化に関する設問への正答率が低く、既存の知識と資料を関連させて捉えることに課題が見られる。	おもに地理的分野における世界各地の人々の生活に関する設問への正答率が低く、人々の暮らしと環境の関わりを考察し表現する力に課題が見られる。	おもに中世の歴史に関わる設問への正答率が低く、社会的事象の特徴や流れの概要を把握したり見出したりする力に課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野の近世の政治体制や制度に関する設問への正答率が低く、基礎的事項の定着と資料活用 of 技能に課題が見られる。	近世の法令に関する設問への正答率が低く、為政者の意図や時代背景等を関連付けて考察し表現する力に課題が見られる。	日本の諸地域の農業に関する設問への正答率が低く、各種統計資料から課題や特徴を見出す力に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
理解を深めるために、授業中の内容や課題に取り組むことで復習の機会を増やす。	複数の資料について資料集などを使い、情報を読み取らせる学習活動を増やす。	問いについて、自分自身の言葉で記述する機会を設けることで、自分の考えを整理できるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入前の家庭学習も活用して既習事項を一度把握させたうえで授業を行う。そして、その知識と他の資料を関連付けて捉えさせる授業運営を行う。	社会的事象を時代背景や自然環境などを基に論述させる機会を設け、根拠を明確にして、言語化、文章化する授業を展開する。	身近な生活に関わる課題や時事問題等を基に社会的事象の特徴や流れを概括する学習を取り入れ、生徒が主体的に学習課題を見出せる授業を展開する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入前の事前学習や本時の振り返り、前時の復習の時間を「知識の定着」に焦点を絞り、授業ではさまざまな知識を関連させることを重視した運営を行う。	社会的事象間の相互関係や関連性を考察する課題を多く取り入れ、根拠を明確にし、自分の考えを論述する学習活動を取り入れる。	身近に起こる様々な社会的事象から学習課題を見出させる活動を取り入れる。また、時事問題から興味・関心を引き出し主体的に物事を捉えられる授業を実践する。

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では、すべての観点において目標値を上回った。生徒の興味・関心を引き出すような課題設定を充実させた成果であると考えられる。
- ・第3学年では「思考・判断・表現」「活用」の達成度が他のカテゴリーに比べて高かった。生徒の自由な発想で問題を解決する授業を充実させた成果であると考えられる。

(2) 課題

- ・第1学年では「データの活用」の達成度が他のカテゴリーに比べて低かった。データを分析し、自分の考えを発表する機会を多く設ける。
- ・第2学年では「数と式」関数」の達成度が他のカテゴリーに比べて低かった。日々の十行から机間指導を綿密に行い、基本的な計算の定着と計算技能の更なる向上を図る。
- ・第3学年では「知識・技能」「基礎」の達成度が他のカテゴリーに比べて低かった。基礎的な内容の確認を重点的に取り入れ、こまめな復習と定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	上回っている	/	/
第2学年	前年度より 8.2ポイント 上回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 9.9ポイント 下回っている。	前年度より 2.1ポイント 下回っている。 (第2学年時)	やや上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形、関数に関する問題では目標値を上回っているが、数と計算、データの活用に関する問題では目標値を下回っている。	数と計算、図形、関数に関する問題では目標値を上回っているが、データの活用に関する問題では目標値を下回っている。	数と計算、図形、関数に関する問題では目標値を上回っているが、データの活用に関する問題では目標値を下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形、関数、データの活用に関する問題では目標値を上回っているが、数と計算に関する問題では目標値を下回っている。	全体的に目標値を上回っているが、関数のグラフやヒストグラムから情報を読み取る問題の達成度は比較的低い。	全体的に目標値を上回っているが、ヒストグラムから情報を読み取る問題の達成度は比較的低い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値を下回っている。特に関数に関する問題では、目標値を大きく下回っている。	全体的に目標値を下回っている。特に、問題文と連立方程式を読み取り、 x と y が何を表すのかを問う問題では、目標値を大きく下回っている。	全体的に目標値を下回っている。特に、問題文と連立方程式を読み取り、 x と y が何を表すのかを問う問題では、目標値を大きく下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グラフやデータなどの視覚的な情報を数と計算の領域で学習した内容と結び付けるような活動を多く取り入れる。	グラフの読み取りやデータの読み取りに取り組む時間を多く設け、それらを使って発表する活動を取り入れる。	生徒の興味・関心を引くようなデータを題材とした授業を行い、生徒が自分の考えを発表する場を多く設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算問題に丁寧に取り組む時間を多く設ける。また、机間指導では計算において特に丁寧な個別指導を行う。	関数のグラフやデータから情報を読み取り発表する機会を多く設け、他者の発表を批判的に考察する活動を取り入れる。	生徒の興味・関心を引くようなデータを題材とした授業を行い、生徒が自分の考えを発表する場を多く設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関数の領域をはじめとし、多くの既習事項を振り返る機会を多く取り入れ、既習事項どうしを結び付けられるような指導を行う。	文章を読み解き立式する問題を多く取り扱い、問題文と数学の学習内容を結び付ける活動に重点的に取り組む。	文章を読み解き立式する問題を多く取り扱い、問題文の状況を具体的にイメージする活動に取り組む。

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、3観点全てで達成率が100%を上回り、知識・技能の観点では、昨年度よりも達成率が上回った。

(2) 課題

- ・第2、第3学年共に、化学分野に関する理解に課題があるので、特に元素記号や化学反応式の知識の定着をはかる必要がある。
- ・言葉による表現だけでなくモデルや図を自分で作成し、表現する活動を増やすことで、視覚的に理解出来るようにしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも5.1%上回っている。	/	/
第2学年	正答率の校内平均は前年と比較して1.4%下回っている。	(第1学年時) 正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも3.8%上回っている。	/
第3学年	正答率の校内平均は前年と比較して7.6%下回っている。	(第2学年時) 正答率の校内平均は前年と比較して8.0%下回っている。	(第1学年時) 正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも2.1%下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。 植物の葉の働きに関する知識の定着に課題が見られた。	目標値を上回っている。 水溶液の性質からの推察にやや課題が見られる。	目標値を上回っている。 動物のからだの消化器官のはたらきについての理解に課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より0.8ポイント上回っている。 選択して回答することはできているが、名称を答える箇所に課題が見られた。	前年度より4.4ポイント下回っている。 記述して回答することに課題が見られた。	前年度より0.3ポイント下回っている。 実験手法を自分で考えることが概ねできていた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より6.5ポイント下回っている。 エネルギー・粒子領域での正答率が低い。	前年度より9.1ポイント下回っている。 エネルギー・粒子領域での正答率が低い。	前年度より13.6ポイント下回っている。 記述解答形式の問題で無回答の率が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識の蓄積が必要なので、確認問題やドリルなど、定着のための方策を多くとる。	文章で記述する機会を増やす。またその際に文章での記述方法についても指導する。	教科書の事実を伝えるだけでなく、それを明らかにする方法について考える機会をもつ。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業内でも、用語の確認の時間を作る。一問一答形式で繰り返し覚えるよう指導する。	文章で記述する機会を増やす。またその際に文章での記述方法についても指導する。	教科書の事実を伝えるだけでなく、それを明らかにする方法について考える機会をもつ。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一度学習した課題を反復練習するためのドリルを多用し、知識の定着をはかる。	課題に対して深く考え、即答するのではなく、自分の考えをまとめた上で、お互いに発表しあい、より深く課題を掘り下げられるようにする。	課題に対するアプローチの仕方を変えるなどして、生徒の興味関心を引き起こすような工夫が必要。理科の楽しさを伝えていく。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的に課題に取り組むことができる生徒が増えた。
- ・自分の考えを、その根拠も併せて発言したり書けたりする生徒が増えた。
- ・様々な発声練習を通して生徒の技能を高めることができた。

(2) 課題

- ・歌うことが好きな生徒は多いが、その中でも得意だと思っている生徒が少ない。
- ・実技テストなどの本番で自分の力が出し切れない生徒が多い。
- ・鑑賞分野の授業の充実

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
発声練習に真面目に取り組みフォームが少しずつできてきている。知識についても理解する力がある生徒が多い。	想像力が豊かな生徒が多く、それを歌唱表現に生かすことができる生徒も多い。	授業規律が確立されてきて落ち着いて学習できる環境である。どの活動においても意欲が高い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女ともに歌唱の技能が高い。器楽については苦手意識の高い生徒が多い。知識については理解度の低い男子生徒が多い。	感じ取ることはできるが、自ら工夫する姿勢は弱い。また言語化する力が弱い。	授業規律が確立されているが、意欲に差が見られる。簡潔な回答については発言が多く見られるが、自分の考えなどの発言になると発言が少なくなる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女とも高い意欲で取り組む生徒が増えた。また特に発声練習によく取り組み技能が伸びてきている。知識については基礎や活用についての取り組みが必要である。	音楽的な内容と関わらせて表現したり、書いたりできる生徒は半分程度である。	自分達で協力したり、アドバイスし合ったりして学習活動に取り組むことができている。鑑賞についての意欲が歌唱に比べて低い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な発声練習を継続していくことで、技能を更に伸ばしていく。 知識は様々な活用をさせることで確実な力を身につけさせる。	お互いの表現などを見合い感じたことを伝え合う活動をとおして様々な価値観にふれ、表現の幅を広げていく。	どの活動においても高い意欲で取り組めているため、自分で課題をみつけ改善させていく活動を増やしていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能ともに、根気強く活動させられるように課題を工夫する。 また、教え合い活動を増やし成長していく力を伸ばしていく。	ワークシートの発問を工夫する。歌唱表現の工夫を感じとれるような活動を増やすことで、どのように行えばよいかという実体験を通じて表現することに自信をつけさせる。	意欲の低い生徒に対しては、こまめな声かけとサポートを行いフォローしていく。考えたことを自信を持って発表できるような活動を増やし、発表することに慣れさせて自信をつけさせていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識については、何度も使うことで定着させられるようにする。また、技能については全体的に意欲が高まっているので、具体的なアドバイスをすることやフィードバックする活動を増やすことで、気づかせることから力を伸ばしていく。	言語化する際に、生徒自身が実感できるアドバイスをすることで、イメージを具現化させるサポートをする。また、歌唱表現においてはお互いにアドバイスし合う活動を通して表現力を高める。	全体的に高い意欲で活動できているので、さらに意欲を高めるために、「できた」「わかった」ということが実感できるような活動や声かけをする。

令和5年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・感染症対策の中で開発した新たな学習方法を発展させることができた。視聴覚機器や ICT 機器を活用しつつ、従来型の自由な意見発表も取り入れた鑑賞活動や、技能の育成に関する色彩学習のワークシートを掲示して互いに鑑賞できるよう形にするなど、共にまなび合う活動を増やすことができた。
- ・1年年間指導計画の中で、ICT 機器を使った鑑賞の能力や発想や構想の能力の育成に関する題材と、知識技能の能力に関する題材の実施時期の入れ替えや変更を図った。2、3年生ではタブレットを活用した学習としては鑑賞題材が多かったが、表現題材でも ICT 機器を学習方法に取り入れられようにした。

(2) 課題

- ・今年度も引き続き、生徒が主体的に取り組みつつ、生徒同士が共にまなび合う学習題材や鑑賞および表現の能力の育成に関して、ICT 機器を有効活用した新たな学習方法を開発することが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>様々な色彩が日常生活に存在することを理解するワークを通して色彩の豊かさを実感し、色彩の学習の理解が深められた。墨と色彩を効果的に組み合わせた表現では、各自が発想構想したイメージを創造的に表現できた。</p>	<p>風神雷神図屏風の鑑賞題材では、他の生徒の意見のまとめから新たな気づきを得られていた。自ら選んで鑑賞した作品のよさや美しさを発表し合い聞き合うことで、鑑賞活動における考える力を高めることができた。</p>	<p>鑑賞活動では視聴覚機器やタブレットを活用できたので、互いを認め合いつつ、楽しく取り組むことができた。一方、表現の活動では互いの作品を見合う時間が不足したため、達成感や自己肯定感の獲得が不十分だった。</p>

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ピクトグラムの題材では、タブレットの機能を使いこなして、各自で発想したアイデアを図形機能を活用して表現できていた。銅板レリーフ題材は、初期の工程だけが、金属材料の特性や用具を生かして表現できている。	デザイン鑑賞レポートでは、目的や機能との調和のとれたよさや美しさが鑑賞できていた。意見発表会を通して、造形的な見方や感じ方を広げることができた。銅板レリーフでは各自の発想や構想の能力を豊かに発揮した。	表現および鑑賞の学習を意欲的に行っていて、楽しく取り組んでいることが感じ取れる。期末考査の得点結果も高く、学習課題に前向きに取り組んでいると思われる。春休みの鑑賞課題にも自主的に取り組む生徒が多かった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1・2年で学んだ技能や造形的な視点を生かして、各自のテーマに合った表現を創造的に実現している。表現に必要な資料を集めたり撮影したりして、タブレットを活用して、学習に役立てている。	日本美術や仏教美術の鑑賞では、お互いの意見発表のまとめを生かして、日本美術の特質について深く考えることができた。扇面画では、自分の思いを反映するテーマを考えることができた。	最終学年としての意識が高まり、主体的に課題に取り組める生徒が増えた。日本美術の鑑賞では、例年以上に日本美術の特質についての課題を深く考えられる生徒が多かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校図画工作での学びを思い出させる声かけや説明をしたり、各自のアイデアを生かして工夫して取り組める課題を設定したりして、基礎的な知識や技能を確実に習得させ、表現の活動における技能や造形感覚を高める。	鑑賞授業ではタブレットの機能を生かした意見交換の方法を継続して実施し、よさや美しさを味わう感じ方や見方を広げる。同様に表現の発想構想でも、生徒のアイデアを発表し合ったりして、多様な見方考え方を広げさせる授業展開を行う。	生徒全員の学習成果を互いに認め合えるような、作品紹介の場面を増やしたい。特に表現活動での学習成果については、観点を明確にして解説し、他を認めるとともに自己肯定感をも高めて美術の学習に楽しく取り組ませる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
金属材料を用いた銅板レリーフ制作では、打ち出し作業の工夫点について、ていねいに説明し、各自が工夫して表現できるようにする。創造的な技能を発揮できるように、優れた表現が認められたら直ちに紹介する。	ピクトグラムの発想構想を高めるために、ICT 機器を生かした鑑賞会を実施し、生徒同士の意見交換を生かして、美術の見方や考え方を広げる。日本美術鑑賞でも、ICT 機器を生かした鑑賞題材を実施する。	主体的に取り組んでいる生徒が多いが、今後も多様な見方や考え方による成果を共有しあい、優れた成果を認め合う授業展開を増やして、さらに主体的に取り組む姿勢や態度を伸ばしていきたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校図画工作や中学校2年間の学びや既習事項を生かして、具体的な説明や資料を提示する授業展開を設定する。技能への意識を高め、作りたい物に応じた作り方や材料や装飾の方法など、各自の知識技能を創造的に発揮できるように指導する。	日本美術鑑賞で深めた見方や感じ方を生かして、2学期以降の鑑賞では、現代美術や多様な美術表現の普遍的な価値を、自分なりの感覚で捉えつつ、他の生徒の意見も生かして、作品のよさや美しさをより深く味あわせる。その能力を表現活動にも生かす。	義務教育最後の美術教科として、自分自身にとって最高となる表現や鑑賞の活動が出来るように、これまでの学習成果を確認できるような授業展開を心がける。進路決定とも関連させて、達成感や自己肯定感を高めることができる題材を設定する。

令和5年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・運動量の確保や成功体験を積ませることにより、運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。
- ・「走る」技能が全ての運動の基礎となることに重点を置き、指導することができた。

(2) 課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による、運動機会の減少に伴った、体力の低下。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。
- ・新体力テストの総合数値が東京都の平均を下回っている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できつつある。筋持久力、インナーマッスル、投げる力が弱い。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できつつある。総合的な身体能力の高い生徒が多い。筋持久力、インナーマッスル、投げる力が弱い。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。技術向上のために必要なトレーニングを自ら考えて取り組んでいる。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できている。短距離、長距離の力をもっている生徒が多い。筋力のある生徒とない生徒の差が大きい。インナーマッスルが弱い。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。技術向上のために必要なトレーニングを自ら考えて取り組んでいる。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をしている。スポーツを楽しむ姿勢がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化を図る。特に、大腿四頭筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化を図る。特に、大腿四頭筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化を図る。特に、大腿四頭筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

令和5年度 技術・家庭科（技術分野） 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器の活用により学習効果を高めることが出来た。
- ・基本工具の使用技能を高めることができた。（工具の使用目的や使用条件をより分かりやすく解説、師範により実際に使用するときのイメージをもたせて実習に取り組むなどの工夫による）
- ・作品の完成度を向上することができた。（模範作品の提示、実習ポイントの明確化などの工夫による）
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。

(2) 課題

- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進捗を可視化することで効率を上げる。
- ・パソコンを活用して効率よく調べる技術を身につける。
- ・ノートやプリントを個別に確認することで、知識・理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
構想の表示方法についての知識を身に付けている。工具や機器を安全に使用できる。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術の課題を明確にし、適切な解決策を見いだしている。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。製作品の組み立てや点検ができる。	使用目的について製作品の構造を工夫している。	よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術についての知識を身に付けている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パソコンの特徴と利用についての知識を身につけている。適切なソフトウェアを用いて表現できる。	使用目的や使用条件に関して作品の設計を工夫している。	情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より安全な生活や社会の実現する材料と加工の技術の在り方について話し合い、自分の考えを発表することができるようにする。	材料と加工の技術が安全な生活や社会の実現に果たす役割や影響を踏まえ、材料と加工の技術の概念を説明できるようにする。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造するようになる。情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換についての科学的な原理・法則とエネルギー変換の基礎的な技術の仕組みを説明できるようにする。	エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気付くことができるようにする。	進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よりよい生活の現実や持続可能な社会の構築に向けた情報の技術による問題の解決について、自分の考えを発表できるようにする。	情報の技術がよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に果たす役割や影響を踏まえて、情報の技術の概念を説明できるようにする。	情報に関する技術を身につけ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫創造するようになる。

令和5年度 技術・家庭科（家庭分野） 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生活や技術に対する関心を持ち、意欲的な取り組みが見られる。
- ・基本的な生活能力を実践的に活かせるように身近な生活と結びつけることができた。
- ・製作や実習に際し、作業手順をイメージすることや基本的な技能が身についた。
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。
- ・視聴覚教材、ICT 機器の活用により学習効果を高めることが出来た。

(2) 課題

- ・製作や実習を通して、自ら調べ、確認することで生活を創造する姿勢を育成する。
- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高めるようにする。
- ・製作の際は、作業工程別に進度を可視化することで効率を上げ達成感を得られるようにする。
- ・パソコンを活用して調べ学習等、効率的に行えるようにする。
- ・感染状況を踏まえて、十分な配慮をしつつ調理実習を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。製作に必要な基本的な技能を身に付け、安全に作業することができる。	小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の栄養的特質について理解し、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の生活と家族、消費生活、環境とのかかわりについて理解し、基本的な知識を身に付けている。	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり工夫している。	自分の成長や生活は、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(4) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に必要な栄養を満たす食事について理解するとともに、地域の食文化について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基本的な知識を身に付ける。	衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができるようにする。製作の際は、手順書を読み解き、立体をイメージしながら作業できるようにする。	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとする。製作については、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(5) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解する。日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに適切に選択できるようにする。	1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせができるようにする。製作に必要な技術を身に付け、作業効率も意識しながら、安全に布を用いた物の製作をできるようにする。	自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践する。家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(6) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解し、購入に関する知識を身に付ける。自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。	幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて理解を深める。環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活の実現に向けて、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 1年生は全ての領域で目標値を大きく上回っている。
- ・ 2年生も全ての領域で目標値を上回っている。自分の得意なことについて英文を書く問題で目標値を上回っていた。
- ・ 3年生は目標値をわずかに下回っている領域もあるが、全体的に目標値とほぼ同程度の結果だった。対話文の聞き取りは基礎的な問題では目標値を上回っていた。
- ・ ICT機器を活用した指導の工夫や、基本文を繰り返し練習した成果が見られる。

(2) 課題

- ・ 1年生はアルファベットの文字で正しく書けないものがあったり、自分の好きなことについて英文を書いたりする問題で目標値を下回っているものが見られた。英文を書く問題についてはテーマによっては目標値を上回っているものも見受けられるので、どんなテーマでも英文を書くことができるようになることが課題である。
- ・ 2年生は目標値を上回っているものの、対話文や英文の内容を読み取る問題で目標値をわずかに下回っているものが見受けられた。今後、必要な情報を正確に読み取る力を更に伸ばすことが課題である。
- ・ 3年生は夏にしたことについて相手に伝わるよう正確に書く問題（活用）で目標値を下回っていた。全ての観点、全ての領域において基礎力を定着させることはもちろんだが、活用力も伸ばしていくことが今後の課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	上回っている		
第2学年	前年度より1.7ポイント上回っている	上回っている (第1学年時)	
第3学年	前年度より0.4ポイント下回っている	前年度より3.4ポイント下回っている (第2学年時)	上回っている (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特質を理解できるようになっている。文字を正確に書くことも意識させる。	知識・技能に比べると伸び幅が小さい。書く力を伸ばすことを意識するなど、今後も改善に努める。	他の2領域に比べると伸び幅が小さい。思考・判断・表現の力と共に本観点の力も伸ばすことができるよう改善に努める。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特質を理解できるようになりつつある。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。	対話文や英文の内容を読み取る項目は若干目標値を下回っているが、英文を書く項目では目標値を上回っている。今後も改善に努める。	対話文や英文の内容を読み取ろうとする項目は若干目標値を下回っているが、英文を書こうとする項目では目標値を上回っている。今後も改善に努める。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特質を理解できるようになっている。	基礎的な問題では必要な情報を聞き取ることができている。今後、活用の問題も解くことができるよう改善に努める。	基礎的な問題では必要な情報を聞き取ろうとすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英文を書くことに慣れていない様子も見受けられることから、英作文の活動などを通じて書くことに慣れ、英語を正しく書く力を身につけられるようにする。	自分のことについて英語で書く力を更に伸ばすことができるよう、目的・場面・状況に即し、まとまりのある英文を書き、英語で自己表現する機会を増やす。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し英語で自己表現しようとする機会を設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスや音読練習の機会を多く設けることで基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	英語で自己表現する機会を設けるほか、対話文や英文から必要な情報や要点を読み取る力を伸ばすことができるよう、まとまりのある英文を読む機会を増やす。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し、英語で自己表現しようとする機会を設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文を参考に英文を作る練習などを通じて基礎力を定着させ、基本的な文の語順を理解して、英語を正しく話したり書いたりする力を身につけられるようにする。	英文から必要な情報を読み（聞き）取る練習や、目的・場面・状況に応じて書く（話す）練習を重ねて基礎力の定着をはかると共に、活用力も身につけられるようにする。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し、英語で自己表現しようとする機会を設ける。